

中國の画家。郭熙は
四季の山々を、春は「山
笑う」、夏は「山滴」
たりる」、秋は「山粧
よそおひ」、冬は「山
眠る」と描いてきた。

フリーは風 (現場)からの風

の文がある。桜が満開を迎えたが、この時期の里に、雪にまじり一面の銀世界は驚かされた。この情景を熙はどうか。

の人なんだと受け止められることができる、
握るまない自分がいることが信じられる」と
答えた。物事を深く考
える大切さを教わさせ
られた。

50年以前の高校の物理の授業で「コンビ

二などで購入でき、自家電源になる蓄電池が可能になれば、電線も

会場でも、小さな会場でも出席者すべての人の間を個々にがめるよう努力する」と。まだ女優吉田愛菜さんは、「信じるとは」との間に「人に裏切られた」と言うけれど、その人が見えなかつた部分が見えただけ。それもそ

二などで購入でき、自家電源になる蓄電池が可能になれば、電線も不要になり、世界各地の発電可能な場所で蓄電池が製造できる」との話は今でも思い出します。SF作家ジユール・ヴェルヌの「想像できる」とは実現できま

想像できることは実現できる

車の国際競
争力は非常に

の話題が注目されてい
る。すでにEVは世界
市場で1割に近い割合
を占め、今後EV関連
の投資は世界各国で加
熱するだろう。現在、
EVにはリチウムイオ
ン電池が使われている
が、高温に弱い弱点が
あり、可燃性の有機溶

に高まるとの情報だ。この技術は自動車だけではなく低温から高温まで耐えられ、パソコンなどやスマートフォンなどに使用すれば、より長い時間、パワフルな作業が実現でき、更に宇宙空間で使用されるデバイスなどにも活用で

電源確保は世界情勢や
気候変動で大きな話題を
となり、経済面でも電
源開発は重要な要素を
年々増大させている。
特に自動車メーカー
のEV（電気自動車）
での全固体電池の開発

特に日本は早い時期から全個体電池の開発に力を注ぎ、大量の特許申請を行っている。液体電池の4倍と言わざるコスト要因が解決している。

き、より大容量、大出力が実現できたなら飛行機や船などでの活用や、現在電気を必要とする施設や家庭への全

個体電池活用の夢が実現できるのではないかと期待してしまう。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



雪化粧し直した山々、満開近い桜、今年の気候が心配になる